

絲海

第 9 号

編集発行 伊丹市文化財保存協会
伊丹市千僧1丁目1
0727-83-1234(内線 426)

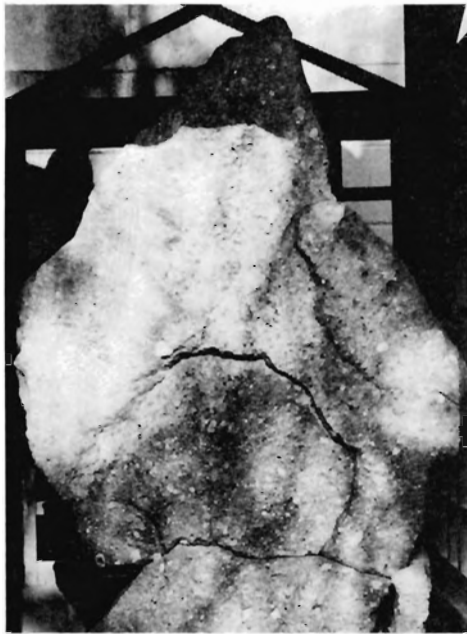
文化財探訪

辻の碑

旧西国街道の伊丹坂を東に下ると間もなく旧辻村という部落に達する。

ここは西国街道と多田街道とが交叉するいわゆる「辻」で、昔はこのあたりに掛茶屋などがあって、洪茶や煮物で客を引き、旅人はここで食事をしたり、新しい草鞋に履きかえたりして、上りの人達は「京近し」を感じたものであった。

ふりかえってみれば、いま越してきた伊丹坂の険が西に



辻の碑

そびえ立っており、これから瀬の早い猪名川を渡し舟にのって対岸まで渡らなければならぬ。それ故に、休憩するにはまずもってこいの場所といわねばならぬ。

一方、多田街道は、ここに建てられている元禄十四年(一七〇一)の道標に従って能勢口に達すると、国道一七一号線北沿に建てられた寛政元年(一七八九)の道標を右に見て、満願寺を経て多田院に達することができるのである。この街道もまた多田源氏の栄えた頃には伊丹にも多田四十八砦の一角があつて、多田院への交渉はこの道を通じて繁かつたことと思われる。

この両街道が交叉するここにいまでも「辻の碑」という古碑が建っていて、昔の名残りを留めている。

伝説では源満仲が建てたといわれているが、これは根拠のないことである。享保二十年(一七三五)の記録を見ると、すでにここにこの碑があったことを記されており、寛政九年(一七九七)に書かれた「有岡昔語」には「辻の碑は名高き古跡なり。……刻して……其の余文字多けれども磨滅す。」と記されていて、寛政九年(一七九七)にす

に読みとれぬほど磨滅していたようであるから、相当に古い碑であるといわねばならぬ。

この碑は高さ九二センチメートル、巾七六センチメートルの自然石で、鋭角を上方に向けて建てられ、いまは草堂の中に納められている。表面に銘文があつて、多くの文字が刻まれていたようであるが、多年の風雨にさらされて磨滅し、いまでは中央上方に刻まれた一行「従東寺十里」の外は読みとることができない。しかし記されていた銘文は記録があつて「従東寺十里。従関戸七里。従須磨七里。従天王七里。従大小路七里。」

の文字で、東寺とはいままでもなく京都市南区九条町にある真言宗東寺派総本山教王護国寺のことで、往時の王都鎮護寺であり、また信仰の中心地でもあつたから、とくにこれを中央に刻んだもので、他の四行はいずれも摂津国の東西南北の国境からこの辻村までの距離を記したものである。関戸とは、摂津の東方、山城との国境、大山崎の関戸院のこと。須磨は摂津の西方、播磨との国境、いまの神戸市須磨のこと。

大小路は、摂津の南方、河内との国境、堺市大小路町のこと。

天王とは、摂津の北方丹波との国境、いまの三田市母子天王嶺のこと。

いま地図の上にもその対角線を引いてみると、北天王嶺より南大小路までの距離が五九キロメートル、東関戸から西須磨までが同じく六二キロメートルでほぼ同じ距離だから、この碑は辻村が摂津の国の中央であることを標示するために建てられた道標であることが知れる。

有名な宮城県の多賀城の碑(高さ二メートル・巾一メートル)を模して建てたものとも伝え、また「物思ふ心いたみてそこやこやこ猪名にはあらぬ辻のいしふみ」という詠人不知の狂歌もあつて、まさに珍しい古碑であるが、さて何時の時代に建てられたものか、また何人の手によつて建てられたものであるか、いまでは知るに由もないのは惜しいものです。
昭和四十年(一九六五)十月十五日伊丹市指定史跡に指定され、永遠に保護顕彰されることになった。
(「伊丹市指定文化財」より引用)

事業の回顧

役員研修と市内の文化財パトロール

昨年11月5日当協会の役員が奈良の平城宮跡と唐招提寺と薬師寺を訪れ研修を行いました。

平城宮跡では資料館が修理中のため見学することができませんでしたが、朱雀門の模



役員研修

現地に案内してもらい奈良国立文化財研究所の係員より、説明を受けました。

説明によりまずと平城宮の規模は、以前には約1キロ四方と考えられてきたが、昭和41年以来おこなってきた発掘調査により、一部が250メートル東へ張り出した形であることがわかり、全体の面積はほぼ120ヘクタールとなる。宮の周囲には、外堀と高さ約5メートルの大垣とよばれる築地塀をめぐらし、正門である朱雀門をはじめ、主要な道路に面して12の門を開いていた。宮内には、天皇の即位、正月の朝賀、外国の使節との会見などの国家的儀式をとりおこなう朝堂院があり、大極殿はその正殿にあたる。その北側に、天皇の居所があり、日常的な政務をおこなう内裏があった。などくわし、話を

していただき、これが平城宮跡の整備については、朝堂院・内裏の周辺と、宮城西端の資料館周辺を中心におこない、また発掘調査の終わった部分についても、地下遺構にもついで順次整備されている。掘立柱の建物は、その平面の規模に土壇を築いて芝生を張り、発掘で確めた柱位置にツゲの木を植えて標示されている。礎石建物は芝張した区画内に礎石が配置されている。内裏東方には、復原建物や遺構を露出して展示する覆屋を設けられております。

また、12月3日には、市内にある県・市指定文化財のパトロールを行いました。今回は、市内の南部にある御願塚古墳と頼山陽撰並書、大塚鳩斎墓(杜若寺)と鬼貫の墓(墨染寺)と辻の碑(北伊丹一丁目)と和泉式部の墓(春日丘六丁目)と十一面観世音菩薩立像、大日如来坐像(発音寺)と、巡回したコース周辺の文学碑のパトロールも併せて行いました。

「古事記を読む」中巻後期講座終る

当協会が継続的に開催している「古事記を読む」講座の中巻後期を昨年9月から12月までの間、8回にわたって市立文化会館で行いました。

今回の受講者50人中、女性36人、男性14人で女性が圧倒的に多く参加されました。

講師は、関西大学教授の横田健一先生で、豊富な体験を折り込みながら分りやすく、ときどき脱線、ユーモアを含めながらの講義は受講者を引きつけるものがあり、受講者は熱心に聞き入っていました。

かるた大会



私たちの祖先が築いた文化財に関心を持ってもらうことを願って市内の文化財を織りこんだかるたを使った新春恒例の「かるた大会」が開かれ腕を競い合いました。

1月7日市立図書館で市内の小学生18チーム54人がトーナメント方式で競いました。入賞のうち第3位2組には当協会会長賞として楯を贈りました。入賞者は次の皆さん。



かるた大会

▽優勝Ⅱ中塚愛、奥村静恵、内山明美(笹原2年)▽準優勝Ⅱ向香織、荒西悦子、近石美保(稲野5年)▽三位Ⅲ浜田邦雄、松岡繁郎(鴻池5年)▽四位Ⅳ浜田善成(同4年)▽五位Ⅴ星野陽子、林夏音(棋陽5年)久光佐衣子(同2年)

また1月11日市立中央公民館で、文化財愛護少年団のかるた大会を行いました。入賞者は次の皆さん。

▽優勝Ⅱ八木千恵子、八木佐知子、酒田ひかる(御願塚)▽準優勝Ⅱ吉田今日子、原智栄、原雅則(御願塚)三位Ⅲ中川美智子、中林佳織、谷内加容子(昆陽寺)▽四位Ⅳ酒田めぐみ、河村友紀子(御願塚)渡辺千恵(昆陽寺)



「古事記を読む」
に出席して

木村 卓造

『古事記を読む』講座(中) 巻景行天皇から応仁天皇までに初めて出席させて頂きました。

武骨者の私には古典文学の馴染み難い文章は到底独りでは読み通せるものではありませんが横田教授の名講義の御蔭で、昔の地名も判り易く図解で説明戴き、遺跡や、遺物の横道にそれる愉しいお話には教授の御造詣の深さに感激致し、また、史学への情熱に畏敬をさえ覚える次第であります。

倭健命の『望郷の歌』や『白鳥の歌』には今時戦争での亡き戦友や遺族が共に偲ばれて胸を打ち、又『酒楽の歌』はほんとは「乾さず食せさ」と飲み助の気をそそる思いが致しました。

『蟹の歌』、『髪長姫の恋歌』の情のおおらかさは、まさしく人の代の物語でありましよう。

『大山守命』とか『秋の神』

の物語では何故か兄が歩が悪いようで、何を言わんとしているのだろうかと思いません。

吉備の勢力は鉄の産地の裏づけが有ったからであると知り又、天孫降臨は高千穂町ではないとか、東の淡水門は徳島の麻に似た房が植えられていて海洋の民であった阿波の徳島の植民地的存在であると云う見方をすることを覚え、

大昔は大御食で朝夕の二食が普通であったし、荒ぶる神とは朝廷に従わぬ異教の神を祭る部族の意味であると解すること、科の坂は恵那山の坂で中国自動車道の恵那トンネルの真上にあると教えて戴き、はたまた、槍と矛の違いを覚えて戴いたこと等々いよいよ古事記の魅力に惹かれる想いであります。

されば、下巻での碩学横田教授の声咳に接し得る日を待望する次第であります。尚、市文化財保存協会のこの素晴らしい企画に深謝致しますのであります。

横田講座
知るよるこび

熊谷 兼太郎

「古事記を読む会」に遅ればせながら参加させて頂いて



講座風景

ぐらい見込めるか、テーマの難解さと、公民館の他の前例などから三〇名ぐらいではと云ったのを覚えていた。そのうち予想を超えて市内だけでなく市外からも申込みがあり六十名と田原局長から報告があつて、へえと驚いたものである。

今回の講座に私は中途参加のハンデいで理解しついでいけるかいか不安であつたが横田先生の講義はわかり易く懇切で毎回の二時間が短く感じられた。五十

十数年前に習った歴史、漢文の先生は頑固、偏屈でという個人的体験からの先入感是要らざるものであつた。先づ原典通読、あと字句の解釈、説明と永年大学での研究成果をわかり易く、他の学説の吟味も加えて話される。

各地での新しい発掘、出土品の実証をも含め歴史のイメージを固定したものでなくとらえられている。

受講者は過半が女性であるが私語、ざわめきもなく真摯に耳を傾けノートにメモをと

る学習の態度には感心させられた。それも決して固苦しいムードではなく、先生のジョークには素直に反応し笑いがひろがる。適度の知的興奮も刺激され学ぶことの楽しさを共有し得る。私は当初の二講座に欠席したのが悔まれた。義務のないみずからの知る楽しさの赴くところそれが生涯学習ということではと考へる。いま陳舜臣「中国の歴史」

一五巻の途中である。昨年十一月市の中国佛山市訪問市民団の一員として参加する前に予備知識として読み始めたものだが遅々として進まない。これは亦興行のたっぷりある感じで古事記にでる交流の歴史、さらに四千年前の夏、殷の遺跡発見の最近のニュースなど見るにつけまだまだだにが出てくるかわからないと、野次馬の興味をもって新聞を見ていた。

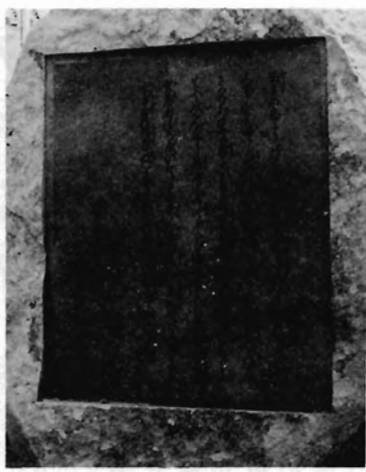
去年十月「つかしん」での山東省文物展「大黄河文明の流れ」会場で隅々垂理事と一緒にになったときも、紀元前二千年の貨幣、奴隸の首切斧、埋葬用のヒスイの板を金の糸でつなげたもの、さらに孫子の兵法の竹筒などの展示に、垂さんと讚嘆久しいものがあった。いま古代がおもしろい。

事務局 日誌

- 10・29 吉永登理事退任(病氣のため)に伴い長年の功績に対して会長より感謝状を贈る。
- 10・31 第4回「古事記を読む」開催
- 11・3〜10 島根県とん原町の「産業文化祭」で文学碑パネル写真展示
- 11・4 文学碑の説明板設置について役員と協議
- 11・5 役員研修(奈良市) 平城京跡と唐招提寺、薬師寺
- 11・6 文学碑、副碑の現地調査。紀貫之の碑再建確認と和泉式部の碑建立確認
- 11・7 第5回「古事記を読む」開催
- 11・18 糸海(第8号)の原稿を印刷業者に渡す。
- 11・21 第6回「古事記を読む」開催
- 11・28 第7回「古事記を読む」開催
- 12・3 市内の文化財パトロール(役員と社会教育課職員) 御願塚古墳、杜若寺(大塚鳩斎の墓)と墨染寺(鬼貫の墓)
- 12・5 糸海(第8号)発送第8回「古事記を読む」開催
- 12・19 理事会開催 昭和61年度事業の執行状況についての報告と年度末までに実施すべきことなどについて協議
- 12・26 昆陽寺、有岡文化財愛護少年団が学習会と折紙実習
- 12・29 辻の碑と和泉式部の墓と発音寺(十一面観世音菩薩立像)など。

文学碑シリーズ

当協会が建立した「文学碑」の作者、出典、作品、建立場所



所などを順次紹介します ① ②③までは糸海(第3〜6号)で紹介済) ④ 井原西鶴 「西鶴織留」

より 富貴の家にうまれ出るは、前生の種也。菟角人は善根をして、家業大事にかくべし。池田・伊丹の売酒、水より改め、米の吟味、糲を惜まず、さはりある女は感に入ず、男も替草

伊丹五丁目 有岡公園

西鶴織留世乃人心 一、津の国のかくれ里より

稲垣常務理事「ともしびの賞」受賞

長年にわたって地域文化の向上に尽くした人をたたえる兵庫県の「ともしびの賞」が去年の11月5日当協会の稲垣達郎常務理事に贈られました。稲垣さんは、洋画家として62年間にわたって郷土の風景を描き続け、各種講座の講師として美術振興にも貢献されていきます。

既刊書 あんない

- 伊丹の文化財スケッチ集 (I・II)各 三五〇円
- 伊丹の文化財スケッチ集 (III) 五〇〇円
- 伊丹の年中行事 六〇〇円
- 伊丹の文化財めぐり地図 三五〇円
- ふるさとこのころをたずねて 四〇〇円

伊丹市文化財保存協会(社会教育課内)・タミータウン(本屋)、美術ギャラリーで販売しております。

文学碑の写真パネルを免費で

市内60カ所に建立した文学碑を写真パネルにして写真展

を行って来ましたが、これを希望者に免費で販売します。入用の方は事務局までお申込み下さい。

「糸海」について

当協会が発行しておる「糸海」についてときどき、なんと読むのですか、またどんないわれがあるのかといった声を耳にします。

伊丹の古い書物を見ると伊丹という文字が出る前、伊丹のことを「糸海」と書かれている。

これは昔伊丹は海岸にあつてそれから糸のような入海のつまったところに伊丹の村があつたからと伝う。と、そこで当協会の機関紙も創刊号(48・1・1発行)から「糸海」として発行しています。

振替口座番号が 変ります

会費の納入などご利用していただいております当協会の振替口座番号が、4月1日から、神戸、4121574に変わりますのでよろしくお願います。